

既存排水機場等の効果 淀川水系木津川下流 [八幡排水機場]

○八幡排水機場では、平成29年10月22日10時～23日13時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、**総排水量343万m³の内水**を排出。

■八幡排水機場の位置・全景



■大谷川の水位低減効果

今回のポンプの稼働により、**総排水量343万m³の内水**を排出し、大谷川の水位が**約2m低下**、浸水面積が**約376ha**、浸水家屋が**約3,330戸減少**。

ポンプ操作を行わなかった場合の想定水位 T.P.+12.2



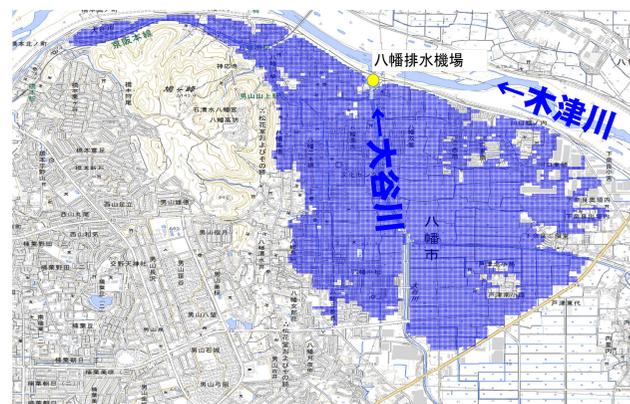
■八幡排水機場の役割

八幡排水機場は、大谷川の内水対策事業として、昭和40年度にポンプ3.0m³/sを2台新設しました。さらに、流域内の開発の進展を受けて、昭和63年度にポンプ12.5m³/sを3台、平成4年には12.5m³/sを1台増設して、**合計排水能力56.0m³/s**の排水機場として現在に至っています。

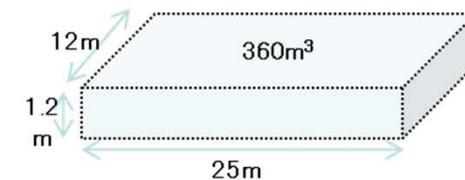
昭和40年度から稼働している八幡排水機場は、完成からすでに**50年以上経過**しています。

八幡排水機場は、木津川洪水の大谷川への逆流を防止するとともに、大谷川の流水を木津川へ排水することで、八幡市内の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

ポンプが稼働しなかった場合の浸水被害



排水量 **343万m³** 25mプール **9,527杯分**



※速報値であり、今後変わる場合があります。